

パレット・レター

No. 28

Apr. 2020

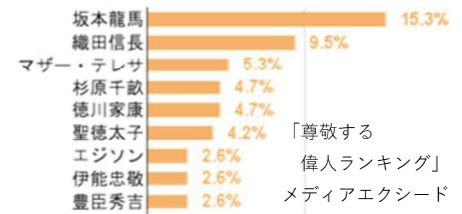


龍馬が、母亡き後に姉との関係を築けたのは、母が龍馬にとっても近い距離で愛着を持って育てたためです。母が龍馬を一心同体の関係で育てたことにより、龍馬は第二次成長期に姉との間に深い関係を、すぐ結ぶことができたのです。

初期の愛着関係が築けていたから、新しい対象とも関係が築け、自分の中に自然に取り入れて成長できるのです。

龍馬が、母亡き後に姉との関係を築けたのは、母が龍馬にとっても近い距離で愛着を持って育てたためです。母が龍馬を一心同体の関係で育てたことにより、龍馬は第二次成長期に姉との間に深い関係を、すぐ結ぶことができたのです。

龍馬が、すぐに相手の懐に飛び込んでつながりが持てる、そして人を活かし人に活かされることができると言われているのは、このためだと思います。



新しい職員を紹介します。

児童指導員／平石 みゆき／東部子どもホーム

保育士／竹田 美保／児童発達支援センター

人間関係の原点が愛着関係にある

皆さんは、お母さんとお父さんにそれぞれどういったイメージを持っていますか。

高度経済成長期前の子どもたちが親に持つイメージは、お母さん〴〵やさしい、お父さん〴〵怖いでした。しかし高度経済成長期以降は、このイメージが逆転しています。



これは、経済の成長と共に父が家庭から姿を消したことにより、母が子どもを叱らなければいけなくなったからです。一方、たまに家にいるようになった父は、子にやさしくするようになりました。

怖い母に育てられた子どもは、怖い人になります。自分が言われたように人に対しても言うようになるのです。初期の母子の関係性が、その後の人とかかわりの持ち方に影響します。

現代は、人とかかわりが否定的になってきたと思います。SNSの中でもかなり否定的な言葉が多いですよね。

人と人を上手に結びつけるより、排除したり否定したり、いじめたりすることの根っこには、人との関係性が変化していることがあります。

子どもに関わる人は、子どもとの距離を近くし、人との関わり方を真似させるようにしていきましょう。

愛着関係は、とても大事なコンセプトです。人間関係の原点が愛着関係にあります。



子ども若者発達支援センター会報

パレット・レター

- 発行 -

四国中央市子ども若者発達支援センター

TEL 0896-28-6029 FAX 0896-28-6030

palette@city.shikokuchuo.ehime.jp



2020年4月7日発行

パレット・レターは「子ども若者発達支援センター」からのお知らせです。

Palette またはパレット・レターに関するお問合せは上記まで。
パレット・レターの表紙になってくれるお子さんを募集します。
ご協力いただける方は、Palette の職員または上記までご連絡ください。

「人間関係の原点が 愛着関係にある」



川田行雄-かわたゆきお-
 京都府立大学/日本大学大学院卒
 香川県西部子ども相談センター所長、県立斯道学園長を歴任。
 臨床心理士として活動しながら、短大・専門学校講師、発達障害相談員、スクールカウンセラー等を務める。

あったか子育てセミナー

愛着の理解と支援

臨床心理士 川田行雄 先生

2月27日にPaletteで開催された、令和元年度第3回四国中央市あったか子育てセミナーは、第1回、第2回に続いて臨床心理士の川田行雄先生をお招きし「愛着の理解と支援」と題し、12歳から24歳までの子ども若者への対応について、お話しいただきました。

今回はバウムテストやエゴグラムといった心理検査を織り交ぜながら、人の成長や愛着についてお話ししてくださいました。

今回のパレット・レターでは、講演の中で先生がお話しされたことを、一部ではありますが、ご紹介させていただきます。



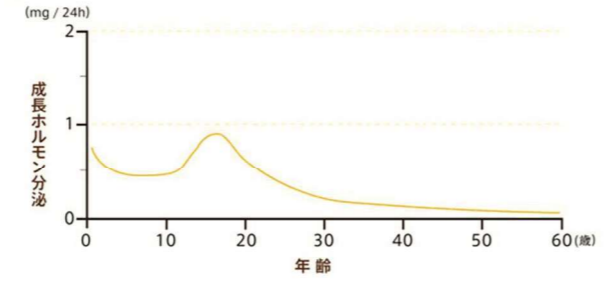
心の拠り所となる 新しい大人ができるかどうか

この時期に新たな出会いをする大人の存在はとて大きく、子どもにとっでは、親と同じぐらいの位置づけになります。自分の「根っこを作り変えるモデル」です。

新しい人との個別の関係の中で、子どもは自分を作り変えて行きます。つまり中学校の先生等との個々のやりとりが、子どもの今後に影響を与えるのです。

子ども達は自分を根底からつくりかえる対象を求めて中学に行きます。そこで、その心の拠り所となる対象に出会えなかったり、関係性が築けなかったりした場合は、その場所つまり中学校に行くことすら怖くなります。例えるなら、0〜1歳の赤ちゃんをお母さんが放り出すような状況です。この時期に不登校がよく起きるのはそのためです。

中学校に心の拠り所が求められずに家に引きこもっても、成長のために邪魔になっている親との間で関係を築き直すことは容易ではありません。心の拠り所となる新しい人が、できるかできないかが大きなポイントです。これは友達ではなかなか難しいです。支援にあたるような大人が、本人に寄り添



上の図は0〜60歳までの間の成長ホルモンの分泌具合を示したものです。第二次成長期のすごさがわかります。生まれたときも成長ホルモンは多いですが、そこから10歳ぐらいまで

は、必要でないものは成長期に捨てられていくのです。

第二次成長は、第一次成長で獲得した情報のうち、不要なものが捨てられていく一方で、新しい出会いにより新しい情報が入ってきます。その相殺により、相対的に脳があまり成長していないように見えるのです。でも、実は、0歳からのダイナミックな成長が繰り返えされているのです。今まで獲得してきたものを捨てながら。

親が邪魔になってくる

思春期の最初の4年間に、思春期葛藤や親子間葛藤が起きます。これは、それまでの第一次成長をつくってきた人、つまり親とは違う人と、そして違う環境で子どもは成長をしようとしているからです。成長のために、それらが邪魔になってくるのです。

この時期に子どもが親に反抗するのは、自らを再構築し成長するために、必要でなくなったこれまでの情報を捨てようとしているためです。第二反抗期と言われているこの時期に親が口を出すと、子どもは反発します。

親は、子どもが新しい人との出会いの中で成長しようとしていることを、理解する必要があります。親としてはシヨックな時期ですが、我慢して栄養を与え続けてください。

脳の配線は成長ホルモンの分泌に応じて進んでいきます。しかしなぜ、相対的に脳が重くならないのでしょうか。

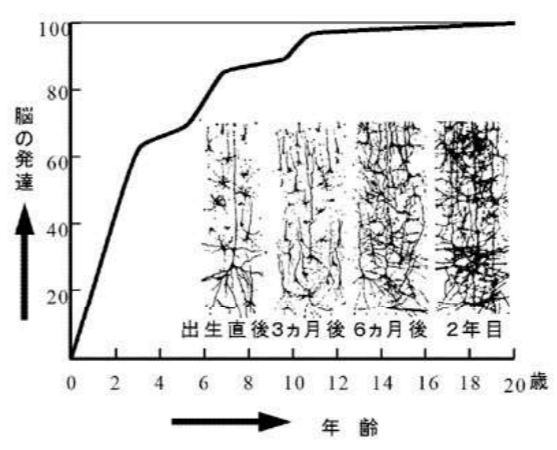
それは、今までに獲得されてきた回線がどんどんスクラップされているからです。すべての情報が頭にとどまるので

回線が スクラップされている

人の脳は 三段階で発達する

ヒトの脳は一直線に成長していくわけではなく、ホップ・ステップ・ジャンプの三段階で成長します。

成長の度合いは0〜4歳のホップの時期が一番大きく、脳の配線の6割がこの時期にできます。その後、自我がつけられる4〜8歳のステップ、そして8〜12歳のジャンプを経て、12年間かけて脳の配線の9割が完成します。



しかし12〜24歳ではあまり脳が発達していません。ヒトの第二次成長期の脳の発達はこんなものでしょうか？

って関係をしっかりと築き、その人との関係の中で新しい自分を作ることが必要です。

坂本龍馬と姉

大成した人の生育歴、成長期を調べると参考になることが多くあります。

坂本龍馬は、第二次成長期を最も充実した形で送った人物だと言えます。新しい人との関係性の中で自分を作り変えたモデルとなる人物です。

第一次成長期には「泣き虫龍馬」と呼ばれ、社会性の乏しいひ弱な感じの子どもだったと言われている龍馬が、後々大人物になったのはなぜでしょうか。

龍馬は、第二次成長期を迎えたときに実母を亡くしています。その龍馬を育て直し、成長モデルとして自分を作り直す対象になったのが、3歳上の姉でした。

姉は文武両道で、体も竜馬より大きく、身長は88センチ、体重が80キロあり「仁王様」と呼ばれていたそうです。龍馬はその姉をモデルに自分を変えていったのです。小説では、姉は自分ができるなかったことを龍馬にやらせたと書かれています。龍馬が姉を自分の中に取り入れていったと考えられます。

(裏面に続く)